

令和7年度第1回 旭川市総合戦略検討懇談会 議事録

日時 令和7年9月11日（木） 午後6時00分から午後7時00分まで

場所 旭川市役所総合庁舎 多目的室

出席者

・参加者（参加者名簿順）

黒川 伸一 氏、工藤 直志 氏、加藤 健太 氏、小原 隆 氏、
和泉田 政国 氏、端 浩規 氏、柏葉 健一 氏、赤松 昌輝 氏

・オブザーバー

北海道財務局旭川財務事務所長 山口 浩次 氏
北海道開発局旭川開発建設部地域連携課長 林 圭介 氏
北海道運輸局旭川運輸支局首席運輸企画専門官 中野渡 剛志 氏
北海道農政事務所地方参事官 倉知 伸好 氏
北海道上川総合振興局地域創生部長 寺山 善規 氏

・事務局

総合政策部次長	高橋 慶太
政策調整課主幹	狩野 大助
政策調整課主査	石田 直紀
政策調整課	山下 祥生

会議の公開・非公開

公開

傍聴者 なし

会議資料

資料1 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について（一式）

資料2 地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告、検証について

参考資料 旭川市の人口動態について

1 開会

2 議題

(1) 第2期総合戦略の数値目標及びKPIの最終報告、検証について

【A氏】

旭川空港の利用拡大について、地元から出発する人（アウトバウンド）と、観光などで旭川に来る人（インバウンド）のどちらを主なターゲットにしているか。

【事務局】

外貨を稼ぐという観点から、インバウンド（外から来る人）を増やすことに力を入れているが、路線の維持・存続を考えると、アウトバウンドとインバウンドの両方をバランス良く増やしていくことが重要である。

【B氏】

新規開業件数の目標値が高いように思うが、理由はあるのか。

【事務局】

（コロナ前の）平成30年度の基準値からさらに伸ばすことを目指して目標を立てたため高く見えており、その後の新型コロナウイルスの影響などにより、実績が目標値に届いていないものと考えている。

【C氏】

女性就業率について、社会が変わってきて、体感的にもっと高い数値でもおかしくないと思うが、意外に高くないように感じる。若年女性の社会減の影響はあるのか。

【事務局】

基準値が39.8%で、現状45.2%であるため、伸びていることは間違いない。後しでの部分については、若年女性、特に20代の社会減が大きいいため、そのことが影響している可能性はあると認識している。

【D氏】

市内に就業した新規卒業生の割合について、高校生が下がっているとは思いますが、大学生はどれくらいの割合なのか。地元定着のターゲットとしては高校生なのか。

【事務局】

令和5年度の数値では、市内の高校生が旭川市に就職する割合は52.7%、大学生が2

9. 5%になるので大学生の方が低くなっている。旭川市としては、まずは地元就職する割合が高い高校生を主要なターゲットとしているが、今後は市立大学とも連携して、大学生の市内定着も進めていく。

【E氏】

移住定住について、目標値を大幅に越えているが、移住定住施策が社会増に寄与していると考えてよいのか。

【事務局】

目標値の設定は適切であったかという点もあるが、移住定住施策については、積極的に外に出て、東京などでフェアなどを実施してきた成果ではないかと感じている。

【C氏】

実際に移住されてきた方について、アフターフォローなどは行っているか。

【事務局】

相談会に来られた方などのリスト化はしているが、その後の追跡まではできていないので、その点は課題と認識している。

（２）地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告、検証について

【F氏】

1の「食の実験区、旭川」未来の食文化を創造する街プロジェクトについて、イベントが盛り上がるのは良いことだが、事業者負担という観点から、持続可能な取組になるような事業構築が必要になってくると思う。

【事務局】

事業者の熱意をお願いしている部分は少なからずあり、事業者負担を軽減することを含め、持続可能なかたちで事業を構築していくことは非常に重要だと認識している。担当課にもしっかりと意見を伝えていく。

【B氏】

MICEについて、札幌でも大がかりなMICE誘致に力を入れているが、旭川市としては、中小規模のMICE誘致に力をいれるということか。

【事務局】

MICE誘致に関しては、観光課と旭川観光コンベンション協会で協力しながら行っている。

また、現在検討を進めている新文化ホールについては、MICE機能についても検討の視点の一つであり、そうした点含め、MICEの誘致を推進できるよう取り組んでいきたい。

【C氏】

ICTパークについて、KPIは全てコロナ禍の影響で未達成とのことであるが、実際どのくらいの影響があったのか。

【事務局】

大規模イベントが、コロナ禍の影響で実施できなかったことに加え、ホールを使ったイベントなどは、ゲーム会社との調整が上手くいかないという事情もあったが、今後については、プログラミング教室は軌道に乗りつつあるため、そこは継続しつつ、集客が見込めるイベントを開催していきたい。

(3) その他

【F氏】

明らかに高齢者の人口が増えているので、地方創生関係の事業もよいが、福祉施策もしっかりと行ってほしい。

【事務局】

旭川の人口が減少している一方で高齢者が旭川を選んで転入している事実もあるため、福祉の部分もしっかりと行っていく。

【G氏】

「まちにち計画」に参加しているが、昨年度よりも人が増えているものの、事業者が参加する場合の負担がかなり大きい。今後もこのまま進めていくのは難しいのではないか。

【事務局】

参加者の善意で行ってもらっている部分も多いと認識している。現在、社会実験という中で進めており、事業の検証の場でも発言いただきながら、行政と事業者の協働により、持続可能な取り組みになるように進めていきたい。

【E氏】

65歳以上の人口も減少しているが、自然減が多いのか、社会減が多いのか。

【事務局】

本市は福祉施設が充実しているので65歳以上の転入者は多い。一方で、死亡数は増加して

いることから、65歳以上の人口の減少は自然減によるものと考えている。

【B氏】

出生率について、北海道も旭川市も全国平均より低いが要因はあるのか。

【事務局】

北海道の出生率が低いのは札幌市の影響が大きいと考えている。ある程度の人口規模の都市圏については、出生率が低く、地方圏では高くなる傾向があると認識している。